

第44回

中央区政 世論調査

概要版

平成26年5月実施

CHUO CITY

【調査の項目】

- | | |
|---------|----------------------------------|
| 1 定住性 | 7 男女共同参画社会 |
| 2 防災対策 | 8 防犯対策 |
| 3 健康診査 | 9 スポーツ |
| 4 高齢者施策 | 10 図書館サービス |
| 5 子育て支援 | 11 2020年東京オリンピック・
パラリンピック競技大会 |
| 6 区政情報 | 12 施策の要望・評価 |

【調査対象】中央区に居住する満20歳以上の男女個人
(外国人区民を除く)

【対象者】2,000人

【抽出方法】無作為抽出法

平成26年4月1日現在の住民基本台帳に
登録された満20歳以上の男女110,867人より
一定の割合で系統的に抽出

【調査方法】郵送法(郵送に準じた配布・郵送回収)

【調査時期】平成26年5月9日(金)～5月26日(月)

【調査機関】株式会社エスピー研

【回収結果】回収数 1,041 回収率 52.1%

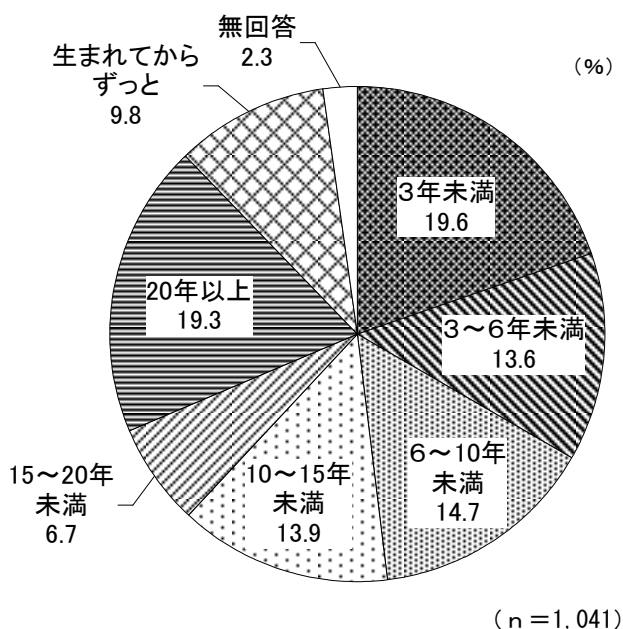


1 定住性

■ 居住年数

『短期居住者』（「3年未満」と「3～6年未満」の合計）は 33.2%で3割を超えている。『中期居住者』（「6～10年未満」と「10～15年未満」、「15～20年未満」の3つの合計）は 35.3%で3割台半ば、『長期居住者』（「20年以上」と「生まれてからずっと」の合計）は 29.1%で約3割となっている。

過去の調査結果と比較すると、『中期居住者』が増加し、『長期居住者』は減少している。

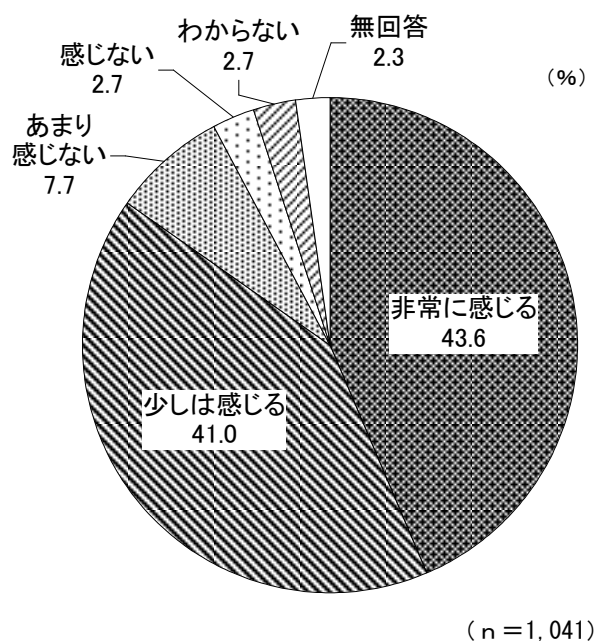


■ 愛着心

『感じる』（「非常に感じる」と「少しは感じる」の合計）は 84.6%で8割台半ばである。

一方、『感じない』（「あまり感じない」と「感じない」の合計）は 10.4%にとどまっている。

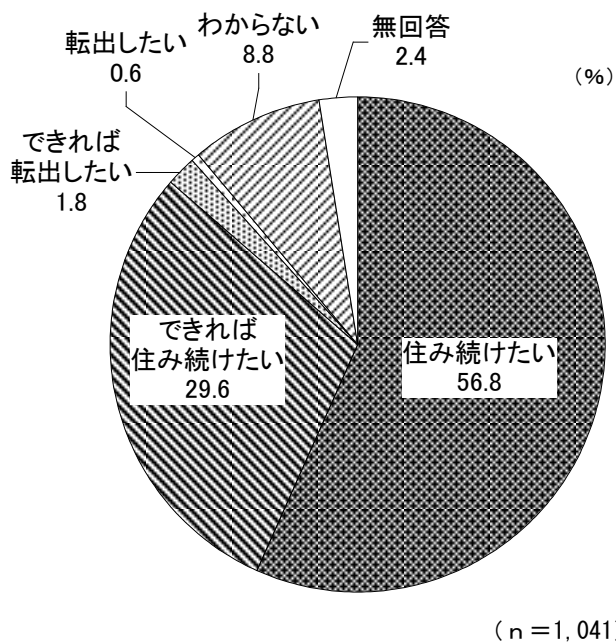
過去の調査結果と比較すると、『感じる』は平成 18 年から継続して8割以上を占めている。



■ 定住意向

『定住意向』（「住み続けたい」と「できれば住み続けたい」の合計）は 86.4%で8割台半ばとなっている。一方、『転出意向』（「できれば転出したい」と「転出したい」の合計）は 2.4%にとどまっている。

過去の調査結果と比較すると、「住み続けたい」は昨年より 2.5 ポイント増加しており、「できれば住み続けたい」と合わせた『定住意向』は昨年とほぼ同じ割合となっている。

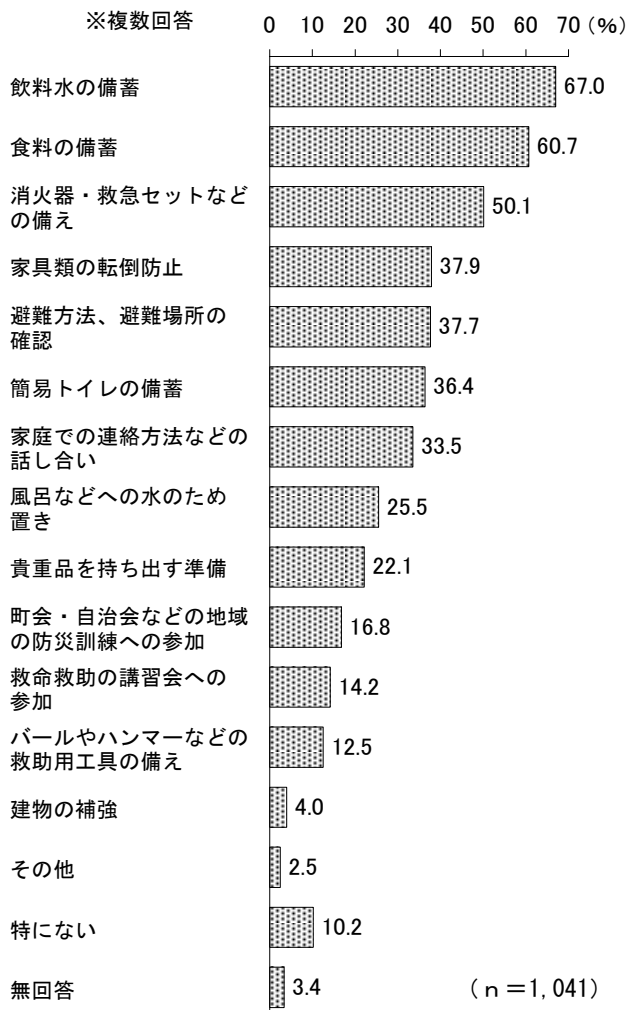


2 防災対策

■家庭での災害に対する備え

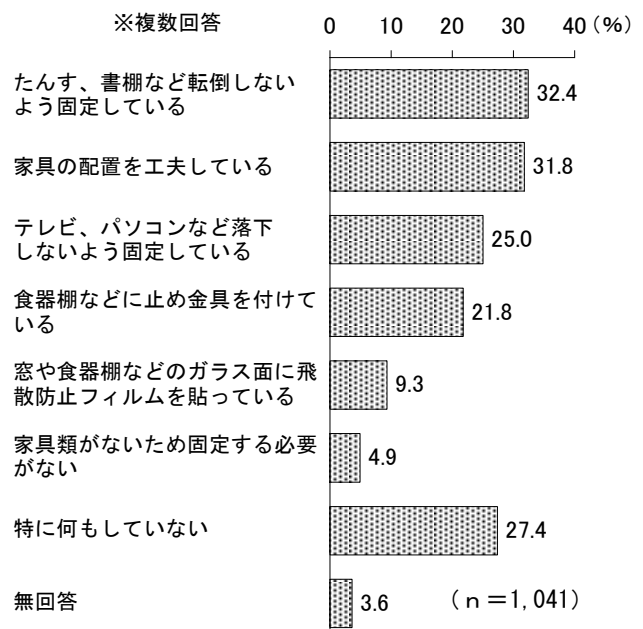
「飲料水の備蓄」(67.0%)が7割近くと最も高くなっている。次いで、「食料の備蓄」(60.7%)、「消火器・救急セットなどの備え」(50.1%)、「家具類の転倒防止」(37.9%)、「避難方法、避難場所の確認」(37.7%)などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「簡易トイレの備蓄」は6.4ポイント増加し、「救命救助の講習会への参加」は3.0ポイント増加している。一方、「風呂などへの水のため置き」は3.0ポイント減少している。



■家具の転倒、ガラスの飛散などに対する備え

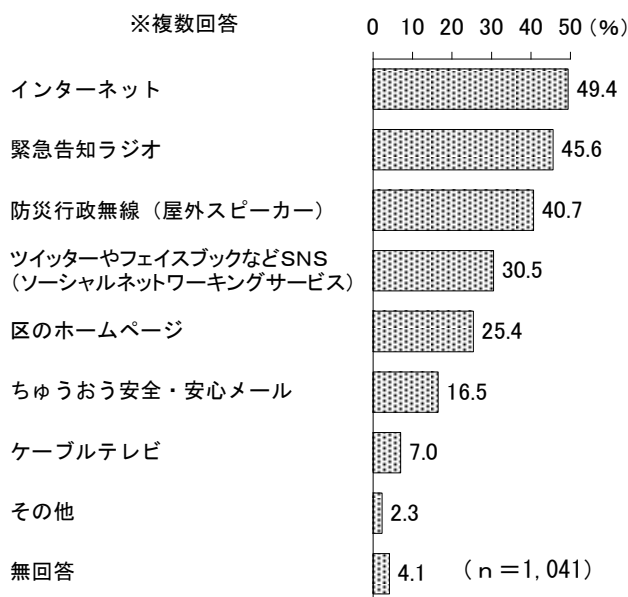
「たんす、書棚など転倒しないよう固定している」(32.4%)が3割を超えて最も高くなっている。次いで、「家具の配置を工夫している」(31.8%)、「テレビ、パソコンなど落下しないよう固定している」(25.0%)、「食器棚などに止め金具を付けている」(21.8%)などとなっている。「特に何もしていない」(27.4%)は3割近くとなっている。



■災害情報を得る手段として有効だと思うもの

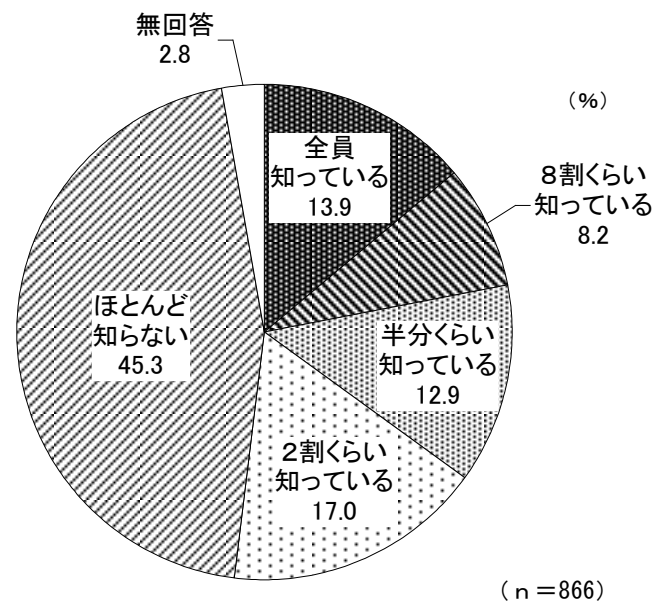
「インターネット」(49.4%) が約5割と最も高くなっている。次いで、「緊急告知ラジオ」(45.6%)、「防災行政無線(屋外スピーカー)」(40.7%)、「ツイッターやフェイスブックなどSNS(ソーシャルネットワーキングサービス)」(30.5%)、「区のホームページ」(25.4%) などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「インターネット」が2.7ポイント増加している。一方、「防災行政無線(屋外スピーカー)」が6.6ポイント、「ケーブルテレビ」が2.9ポイント、それぞれ減少している。



■集合住宅の同じ階に住んでいる方をどの程度知っているか

「ほとんど知らない」(45.3%) が4割台半ばと最も高くなっている。次いで、「2割くらい知っている」(17.0%)が2割近く、「全員知っている」(13.9%)と「半分くらい知っている」(12.9%) がともに1割を超えている。

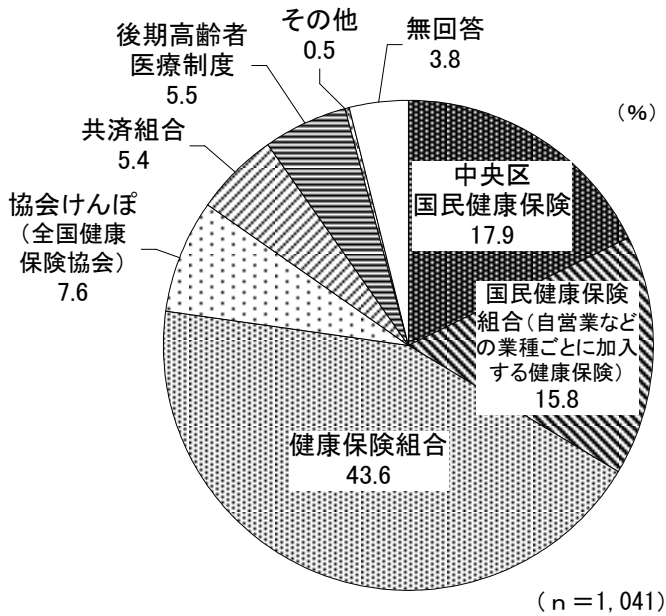


3 健康診査

■ 加入している健康保険

「健康保険組合」(43.6%)が4割を超えて最も高くなっている。次いで、「中央区国民健康保険」(17.9%)、「国民健康保険組合(自営業などの業種ごとに加入する健康保険)」(15.8%)、「協会けんぽ(全国健康保険協会)」(7.6%)などとなっている。

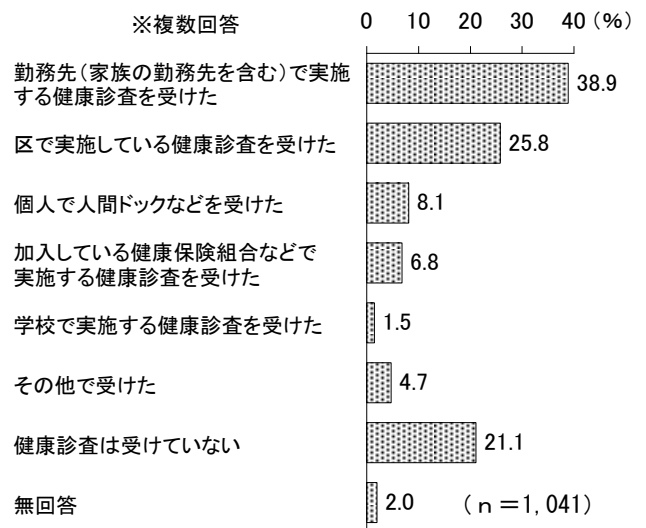
昨年の調査結果と比較すると、大きな傾向の変化はみられない。



■ 健康診査の受診状況

「勤務先(家族の勤務先を含む)で実施する健康診査を受けた」(38.9%)が4割近くと最も高くなっている。次いで、「区で実施している健康診査を受けた」(25.8%)、「個人で人間ドックなどを受けた」(8.1%)などとなっている。一方、「健康診査は受けていない」(21.1%)は2割を超えている。

昨年の調査結果と比較すると、「加入している健康保険組合などで実施する健康診査を受けた」は2.1ポイント、「区で実施している健康診査を受けた」は2.0ポイント、それぞれ減少している。一方、「健康診査は受けていない」は2.1ポイント増加している。



4 高齢者施策

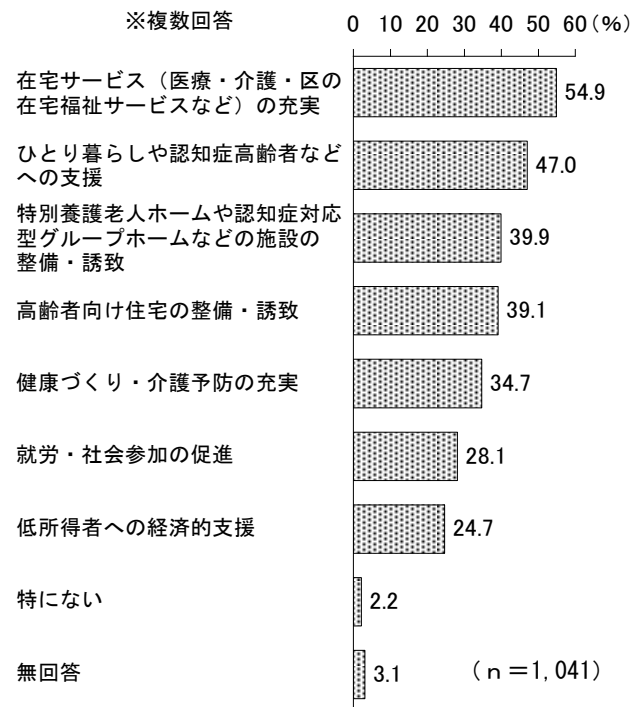
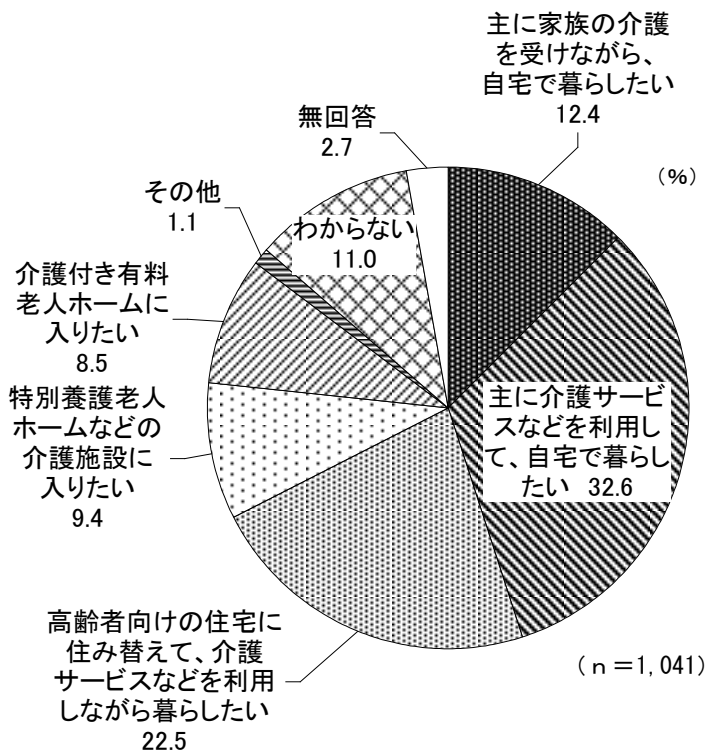
■要介護時における暮らし方

「主に介護サービスなどを利用して、自宅で暮らしたい」(32.6%)が3割を超えて最も高くなっている。次いで、「高齢者向けの住宅に住み替えて、介護サービスなどを利用しながら暮らしたい」(22.5%)、「主に家族の介護を受けながら、自宅で暮らしたい」(12.4%)などとなっている。

過去の調査結果と比較すると、「高齢者向けの住宅に住み替えて、介護サービスなどを利用しながら暮らしたい」は平成23年以降2割台で推移している。また、「主に家族の介護を受けながら、自宅で暮らしたい」と「主に介護サービスなどを利用して、自宅で暮らしたい」の2つを合わせた『自宅で暮らしたい』の割合は、今回調査が最も低い割合となっている。

■区に望む高齢者保健福祉サービス

「在宅サービス(医療・介護・区の在宅福祉サービスなど)の充実」(54.9%)が5割台半ばと最も高くなっている。次いで、「ひとり暮らしや認知症高齢者などへの支援」(47.0%)、「特別養護老人ホームや認知症対応型グループホームなどの施設の整備・誘致」(39.9%)、「高齢者向け住宅の整備・誘致」(39.1%)、「健康づくり・介護予防の充実」(34.7%)などとなっている。

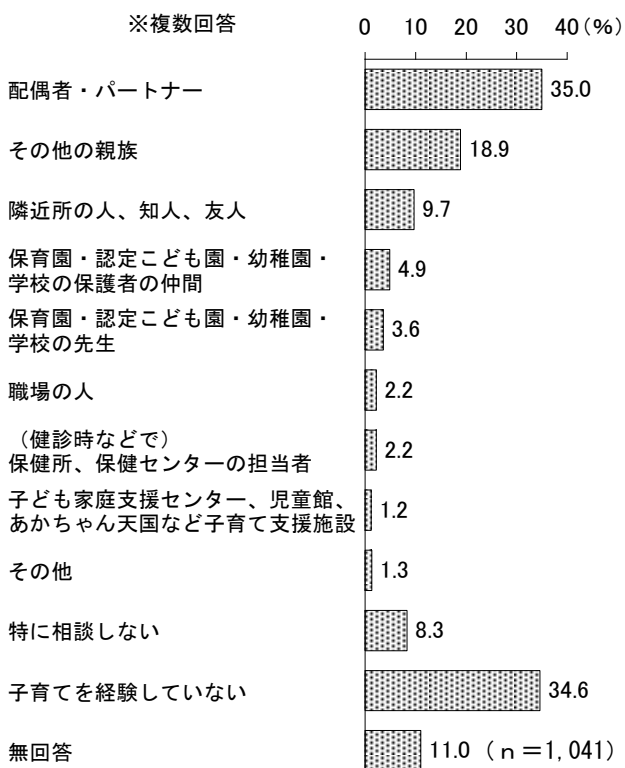


5 子育て支援

■ 子育てに関する悩みの相談

「配偶者・パートナー」(35.0%)が3割台半ばと最も高くなっている。次いで、「その他の親族」(18.9%)、「隣近所の人、知人、友人」(9.7%)、「保育園・認定こども園・幼稚園・学校の保護者の仲間」(4.9%)などとなっている。

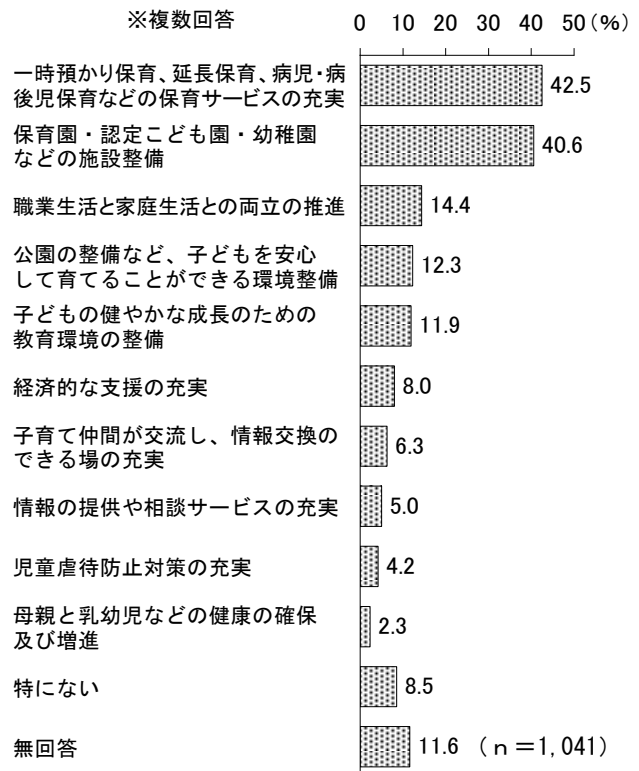
昨年の調査結果と比較すると、大きな傾向の変化はみられない。



■ 区に望む子育て支援策

「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの保育サービスの充実」(42.5%)が4割を超えて最も高くなっている。次いで、「保育園・認定こども園・幼稚園などの施設整備」(40.6%)、「職業生活と家庭生活との両立の推進」(14.4%)、「公園の整備など、子どもを安心して育てることができる環境整備」(12.3%)、「子どもの健やかな成長のための教育環境の整備」(11.9%)などとなっている。

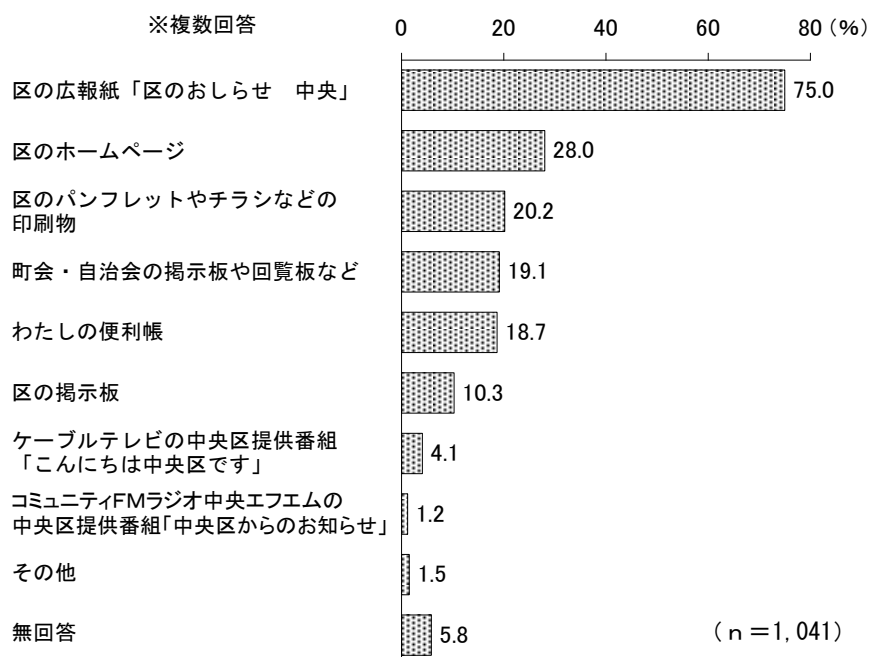
昨年の調査結果と比較すると、「保育園・認定こども園・幼稚園などの施設整備」は5.6ポイント減少している。



6 区政情報

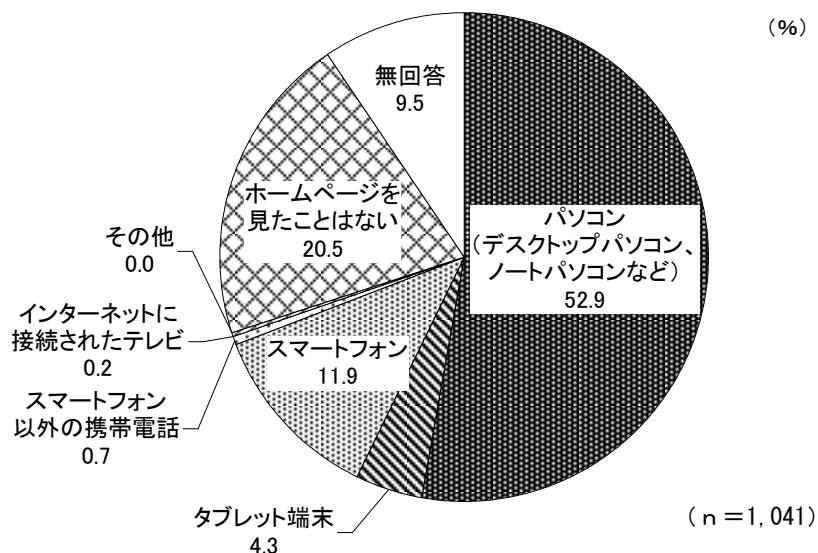
■ 区政情報を得る方法

「区の広報紙『区のおしらせ 中央』」(75.0%)が7割台半ばと最も高くなっている。次いで、「区のホームページ」(28.0%)、「区のパンフレットやチラシなどの印刷物」(20.2%)、「町会・自治会の掲示板や回覧板など」(19.1%)、「わたしの便利帳」(18.7%)などとなっている。



■ 区のホームページを見るときに使う情報端末

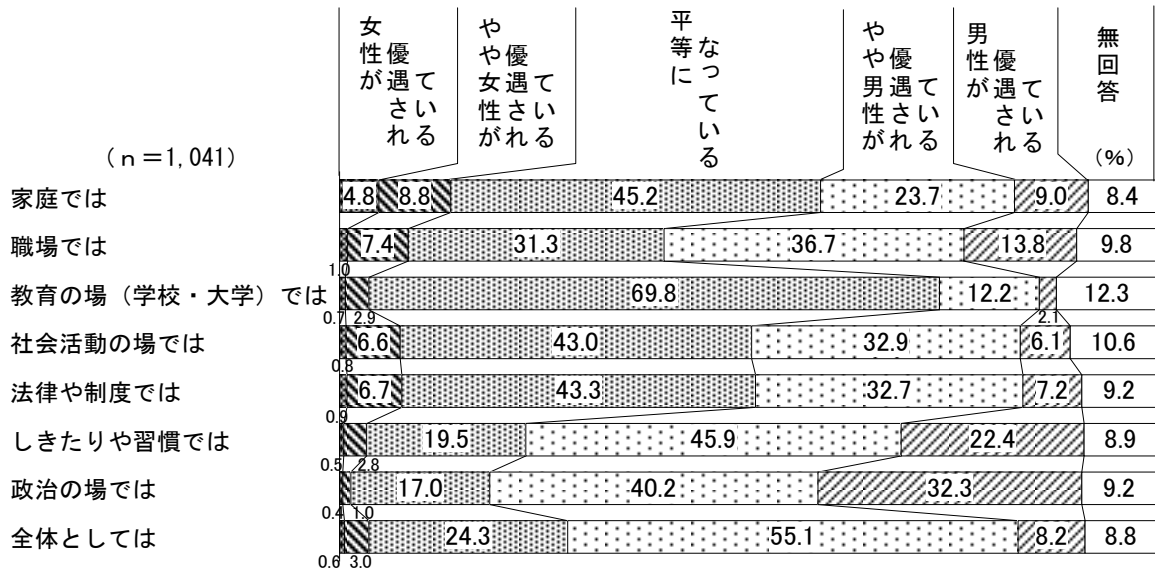
「パソコン(デスクトップパソコン、ノートパソコンなど)」(52.9%)が5割を超えて最も高くなっている。次いで、「スマートフォン」(11.9%)、「タブレット端末」(4.3%)などとなっている。「ホームページを見たことはない」(20.5%)は約2割となっている。



7 男女共同参画社会

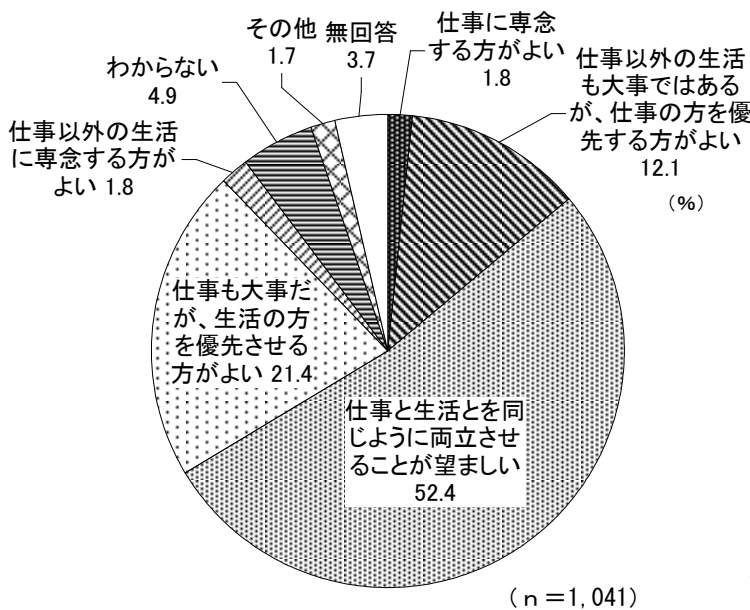
■男女の地位の平等感

「平等になっている」と感じるのは、“教育の場（学校・大学）では”（69.8%）で7割と最も高く、次いで、“家庭では”（45.2%）で4割台半ばとなっている。『男性が優遇されている』（「やや男性が優遇されている」と「男性が優遇されている」の合計）と感じるのは、“政治の場では”（72.5%）で7割を超えて最も高くなっている。



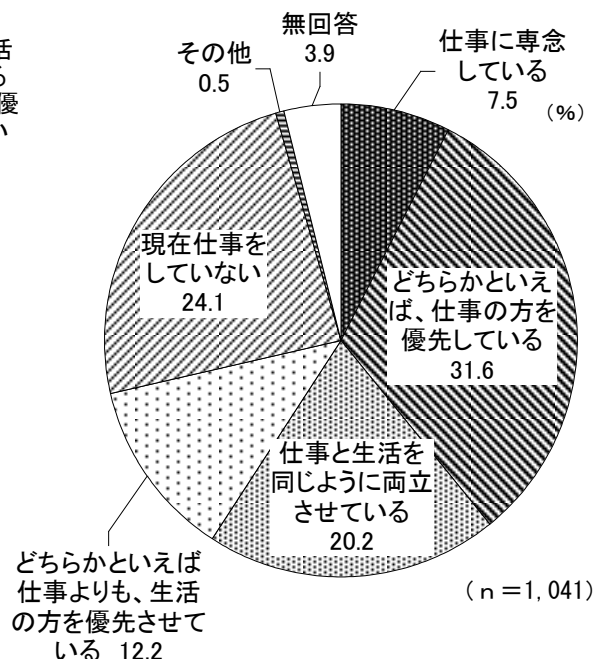
■ワーク・ライフ・バランスについての考え方

「仕事と生活とを同じように両立させることが望ましい」（52.4%）が5割を超えて最も高くなっている。次いで、「仕事も大事だが、生活の方を優先させる方がよい」（21.4%）などとなっている。



■望ましい位置づけに対しての現在の状況

「どちらかといえば、仕事の方を優先している」（31.6%）が3割を超えて最も高くなっている。次いで、「現在仕事をしていない」（24.1%）、「仕事と生活を同じように両立させている」（20.2%）などとなっている。

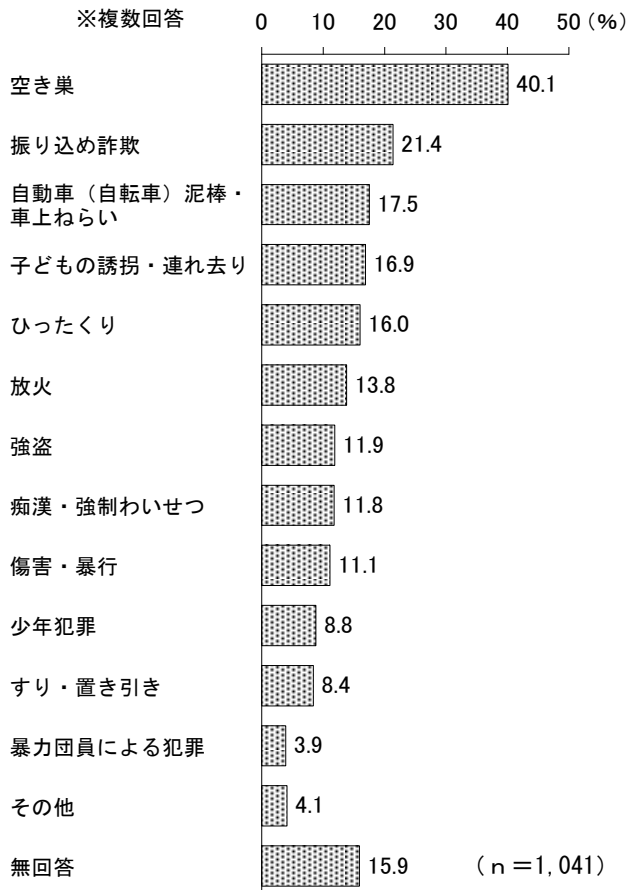


8 防犯対策

■ 不安に感じる犯罪

「空き巣」(40.1%)が4割と最も高くなっている。次いで、「振り込め詐欺」(21.4%)、「自動車(自転車)泥棒・車上ねらい」(17.5%)、「子どもの誘拐・連れ去り」(16.9%)、「ひったくり」(16.0%)などとなっている。

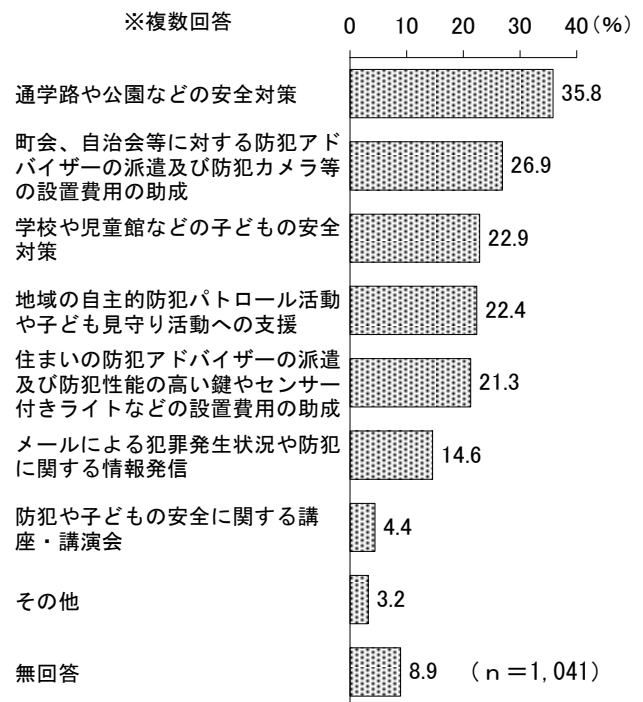
昨年の調査結果と比較すると、「子どもの誘拐・連れ去り」は5.5ポイント、「空き巣」は2.3ポイント、それぞれ増加している。一方、「ひったくり」は6.6ポイント、「自動車(自転車)泥棒・車上ねらい」は4.6ポイント、「放火」は2.6ポイント、それぞれ減少している。



■ 区に特に力を入れてほしい施策

「通学路や公園などの安全対策」(35.8%)が3割台半ばと最も高くなっている。次いで、「町会、自治会等に対する防犯アドバイザーの派遣及び防犯カメラ等の設置費用の助成」(26.9%)、「学校や児童館などの子どもの安全対策」(22.9%)などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「学校や児童館などの子どもの安全対策」は3.4ポイント増加している。一方、「町会、自治会等に対する防犯アドバイザーの派遣及び防犯カメラ等の設置費用の助成」は3.8ポイント減少している。

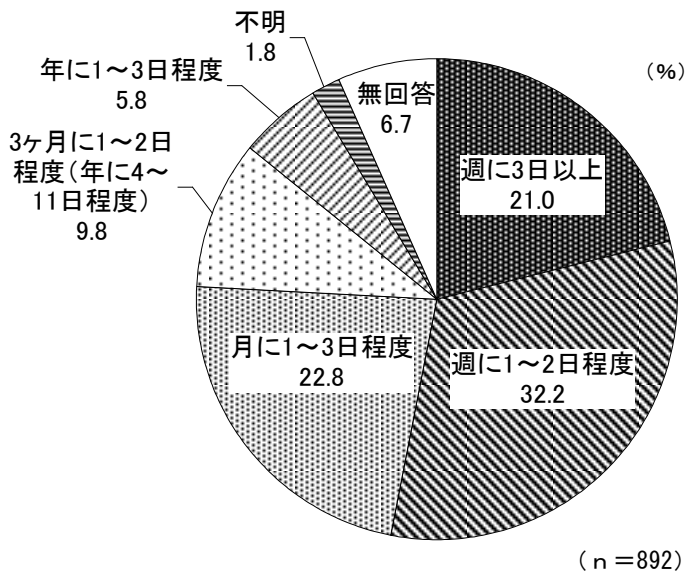


9 スポーツ

■過去1年間に行ったスポーツや運動の頻度

「週に1～2日程度」(32.2%)が3割を超えて最も高くなっている。次いで、「月に1～3日程度」(22.8%)、「週に3日以上」(21.0%)、「3ヶ月に1～2日程度(年に4～11日程度)」(9.8%)などとなっている。

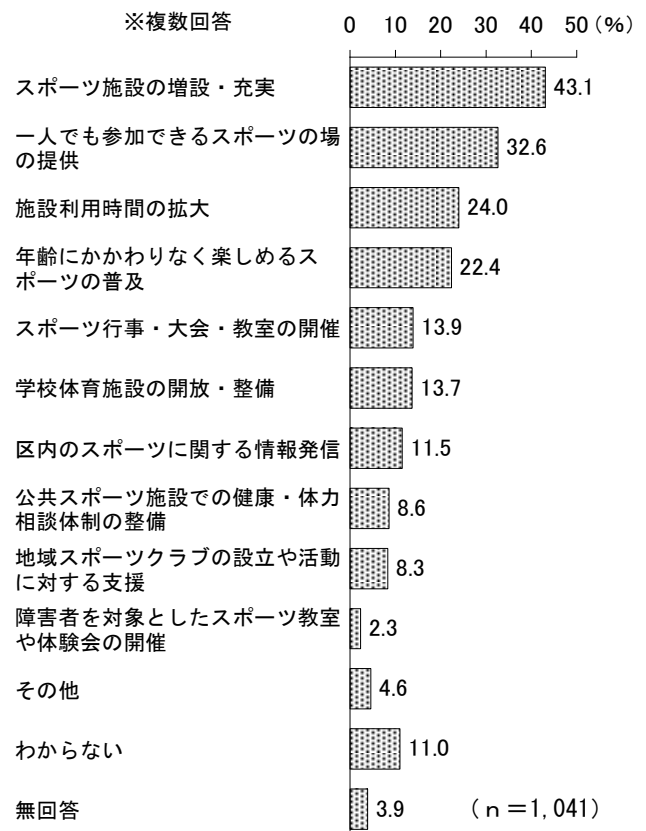
昨年の調査結果と比較すると、「週に1～2日程度」は3.2ポイント増加している。一方、「3ヶ月に1～2日程度(年に4～11日程度)」は3.3ポイント減少している。



■スポーツへの参加機会を増やすために区に望むこと

「スポーツ施設の増設・充実」(43.1%)が4割を超えて最も高くなっている。次いで、「一人でも参加できるスポーツの場の提供」(32.6%)、「施設利用時間の拡大」(24.0%)、「年齢にかかわらず楽しめるスポーツの普及」(22.4%)、「スポーツ行事・大会・教室の開催」(13.9%)、「学校体育施設の開放・整備」(13.7%)などとなっている。

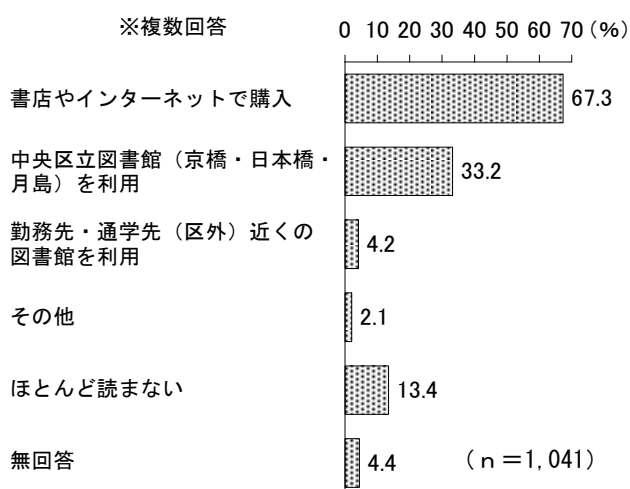
昨年の調査結果と比較すると、「施設利用時間の拡大」は2.1ポイント減少している。



10 図書館サービス

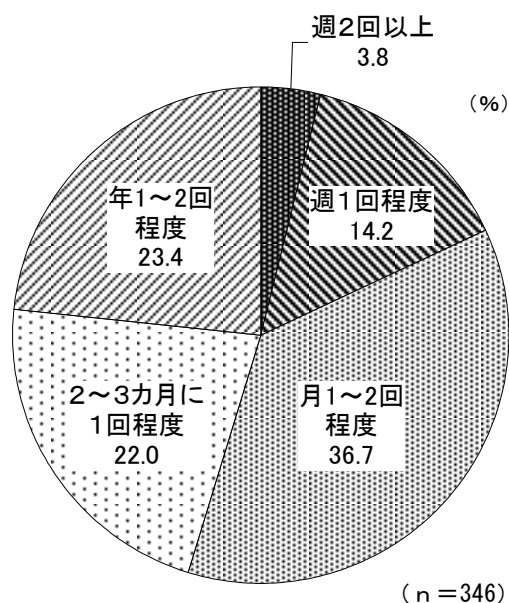
■本を読む方法

「書店やインターネットで購入」(67.3%)が7割近くと最も高くなっている。次いで、「中央区立図書館(京橋・日本橋・月島)を利用」(33.2%)、「勤務先・通学先(区外)近くの図書館を利用」(4.2%)などとなっている。「ほとんど読まない」(13.4%)は1割を超えている。



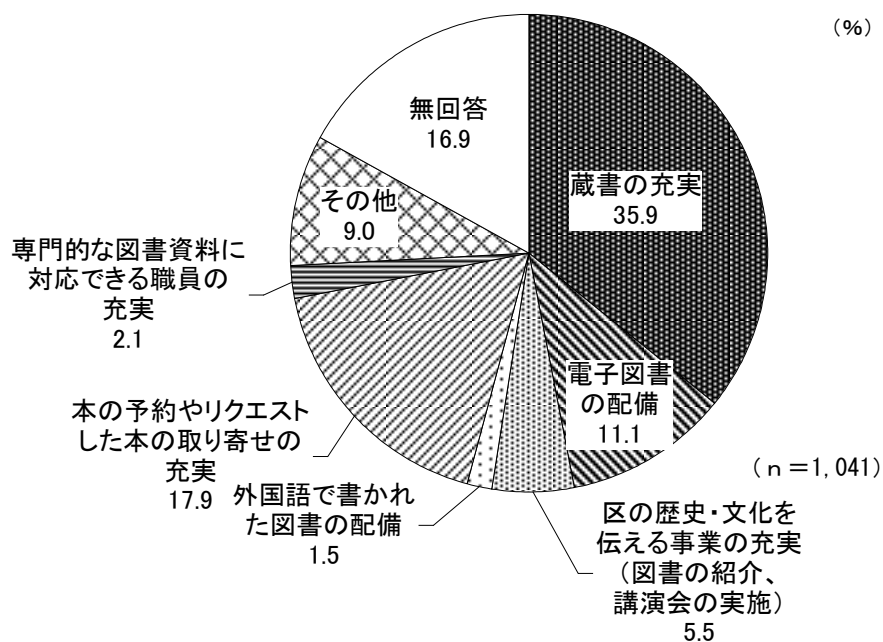
■中央区立図書館の利用頻度

「月1~2回程度」(36.7%)が4割近くと最も高くなっている。次いで、「年1~2回程度」(23.4%)、「2~3カ月に1回程度」(22.0%)、「週1回程度」(14.2%)などとなっている。



■図書館に期待するもの

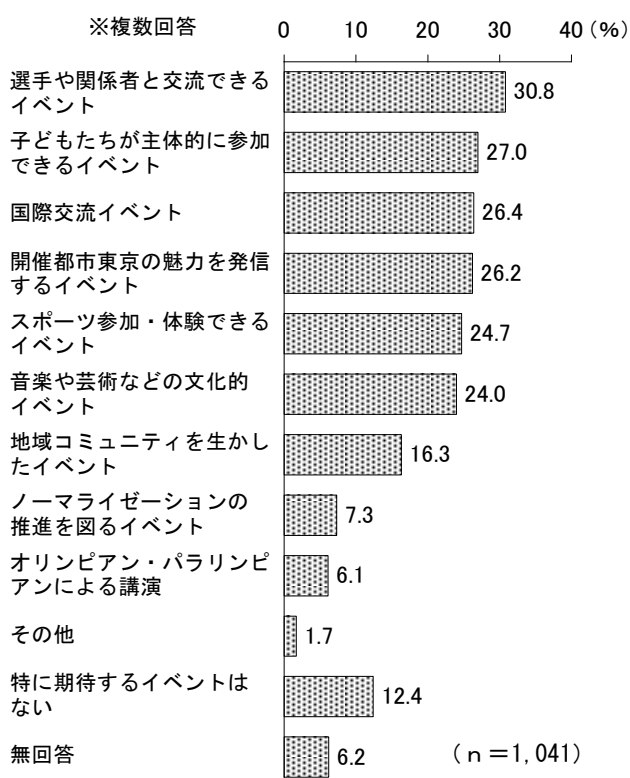
「蔵書の充実」(35.9%)が3割台半ばと最も高くなっている。次いで、「本の予約やリクエストした本の取り寄せの充実」(17.9%)、「電子図書の配備」(11.1%)、「区の歴史・文化を伝える事業の充実(図書の紹介、講演会の実施)」(5.5%)などとなっている。



11 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会

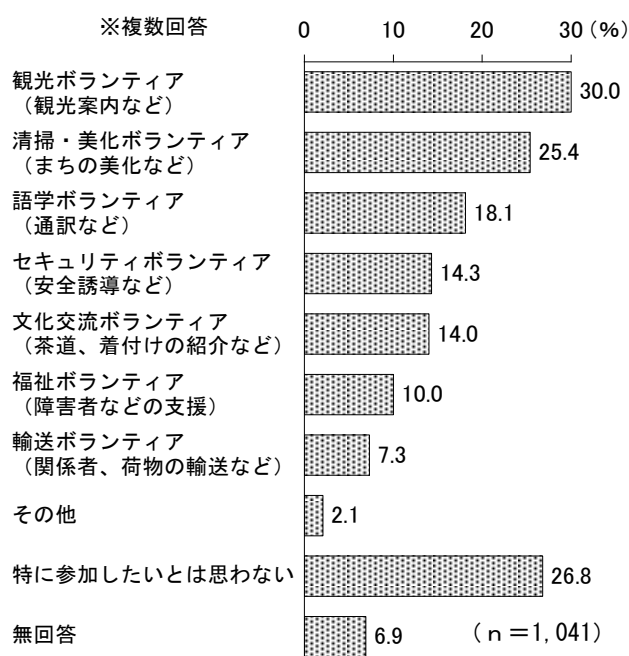
■大会の機運を盛り上げていくために期待するイベント

「選手や関係者と交流できるイベント」(30.8%)が約3割と最も高くなっている。次いで、「子どもたちが主体的に参加できるイベント」(27.0%)、「国際交流イベント」(26.4%)、「開催都市東京の魅力を発信するイベント」(26.2%)、「スポーツ参加・体験できるイベント」(24.7%)、「音楽や芸術などの文化的イベント」(24.0%)などとなっている。



■大会中に参加してみたいボランティア活動

「観光ボランティア(観光案内など)」(30.0%)が3割と最も高くなっている。次いで、「清掃・美化ボランティア(まちの美化など)」(25.4%)、「語学ボランティア(通訳など)」(18.1%)、「セキュリティボランティア(安全誘導など)」(14.3%)、「文化交流ボランティア(茶道、着付けの紹介など)」(14.0%)などとなっている。



12 施策の要望・評価

■ 区の施策の満足度

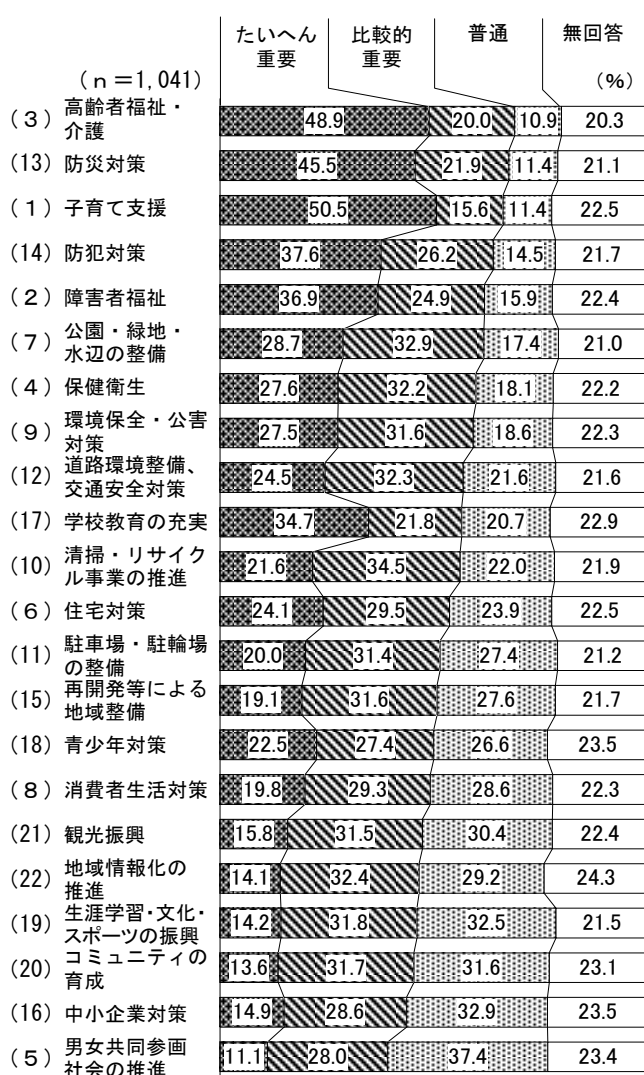
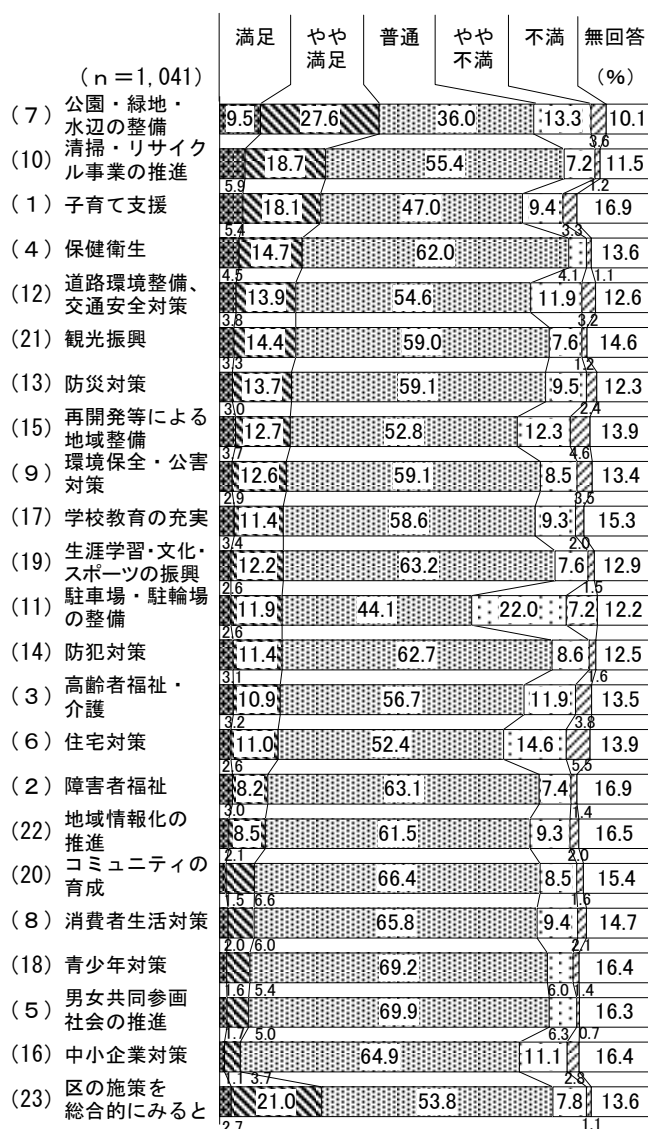
「満足」と「やや満足」の合計を『満足』とし、「やや不満」と「不満」の合計を『不満足』とした場合の、それぞれの上位5項目は次のようになっている。

- 『満足』 ①公園・緑地・水辺の整備 (37.1%)
 ②清掃・リサイクル事業の推進 (24.6%)
 ③子育て支援 (23.5%)
 ④保健衛生 (19.2%)
 ⑤道路環境整備、交通安全対策 (17.7%)
 ⑥観光振興 (17.7%)
- 『不満足』 ①駐車場・駐輪場の整備 (29.2%)
 ②住宅対策 (20.1%)
 ③公園・緑地・水辺の整備 (16.9%)
 ④再開発等による地域整備 (16.9%)
 ⑤高齢者福祉・介護 (15.7%)

■ 区の施策の重要度

「たいへん重要」と「比較的重要」の合計を『重要』とした場合の、上位5項目と下位5項目は次のようになっている。

- 上位 ①高齢者福祉・介護 (68.9%)
 ②防災対策 (67.4%)
 ③子育て支援 (66.1%)
 ④防犯対策 (63.8%)
 ⑤障害者福祉 (61.8%)
- 下位 ①男女共同参画社会の推進 (39.1%)
 ②中小企業対策 (43.5%)
 ③コミュニティの育成 (45.3%)
 ④生涯学習・文化・スポーツの振興 (46.0%)
 ⑤地域情報化の推進 (46.5%)



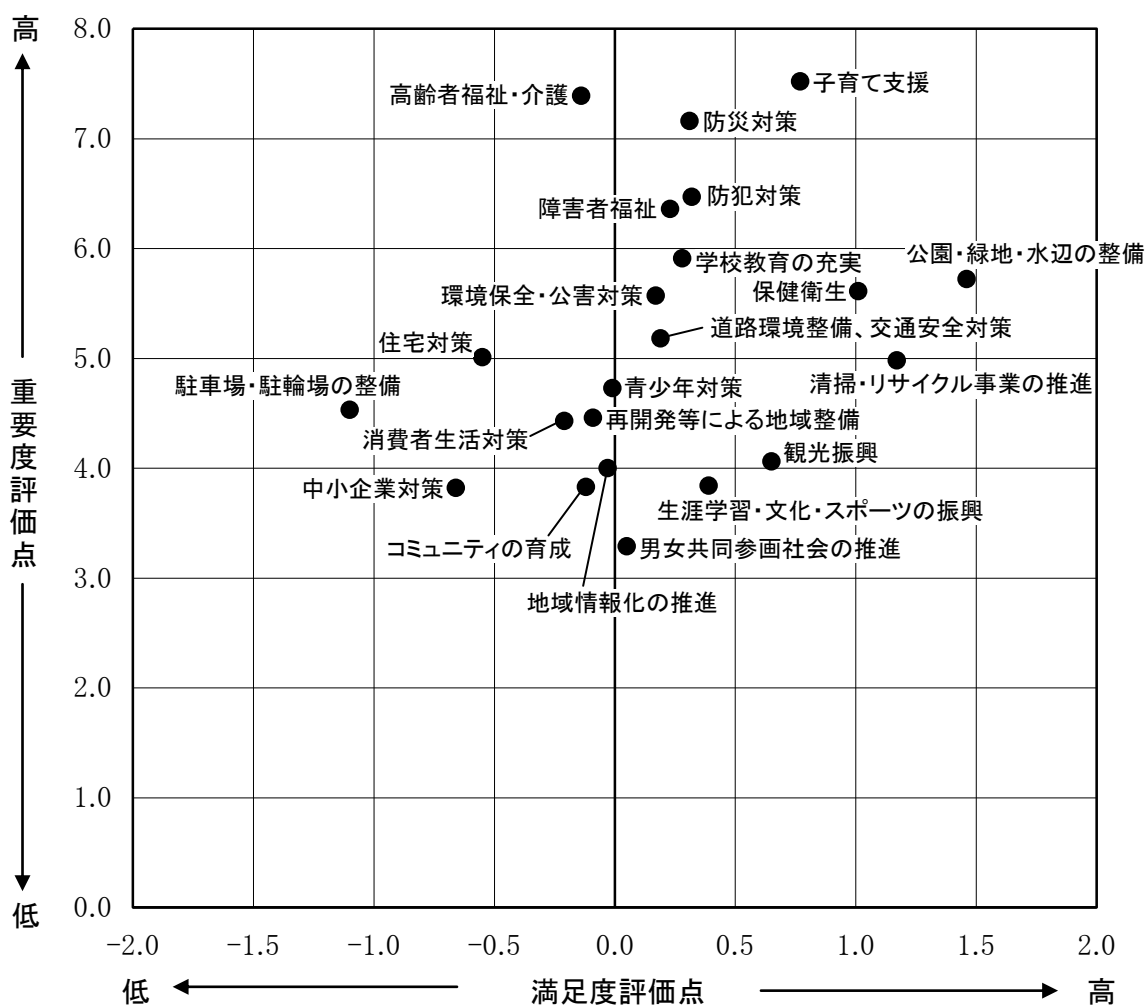
■ 区の施策の満足度と重要度の相関

次の図表は、加重平均値による満足度評価と重要度評価を相関させた散布図である。横軸が満足度評価点、縦軸が重要度評価点になっている。それぞれの算出方法は以下の通りである。

$$\begin{aligned} \text{満足度評価点} &= (\text{「満足」の回答者数} \times 10 \text{点} + \text{「やや満足」の回答者数} \times 5 \text{点} + \text{「普通」の回答者数} \\ &\quad \times 0 \text{点} + \text{「やや不満」の回答者数} \times \blacktriangle 5 \text{点} + \text{「不満」の回答者数} \times \blacktriangle 10 \text{点}) \\ &\quad \div (\text{回答者数} - \text{無回答者数}) \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{重要度評価点} &= (\text{「たいへん重要」の回答者数} \times 10 \text{点} + \text{「比較的重要」の回答者数} \times 5 \text{点} + \text{「普通」の} \\ &\quad \text{回答者数} \times 0 \text{点}) \div (\text{回答者数} - \text{無回答者数}) \end{aligned}$$

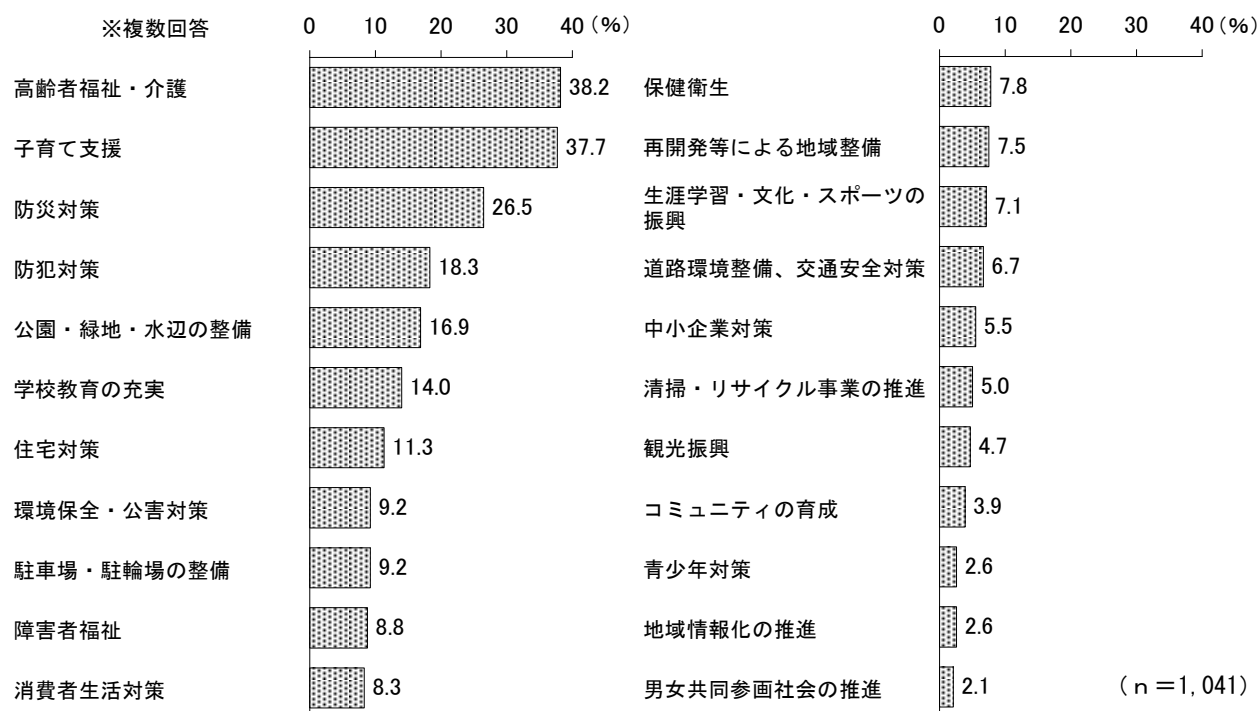
このグラフでは、満足度評価が低く、重要度評価が高い領域（左上方）にある項目が比較的居民ニーズが高いもので、今後の行政課題となるものと考えられる。



■ 区の施策への要望

「高齢者福祉・介護」（38.2%）が4割近くで最も高く、次いで、「子育て支援」（37.7%）、「防災対策」（26.5%）などが続いている。

昨年の調査結果と比較すると、「子育て支援」は4.5ポイント、「高齢者福祉・介護」は3.2ポイント、「消費者生活対策」は3.1ポイント、それぞれ増加している。



第44回 中央区政世論調査

平成26年9月

発行 中央区企画部広報課
中央区築地1丁目1番1号
03(3546)5222(直通)

実施 株式会社エスピー研
千代田区飯田橋3丁目11番20号
03(3239)0071

刊行物登録番号
26-040